

第144回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成29年06月

日時: 2017年6月29日(木) 18:00-19:30 場所: 神奈川大学 16号館 視聴覚B号室

◆ 主催: 防災塾・だるま 司会: 稲垣博正 記録: 紅林敏行

◆ 談義の会参加者: 会員25名 一般6名(含む講師) 計31名 (敬称略)



早川さん(講師)



左(講演会場の模様) 右(大地震発生直後の図)



稲垣さん(司会)

話題: 『150万人都市 川崎市の防災対策』 ～川崎市に大地震が起きた日～
講師: 早川 雄大氏(川崎市総務企画局危機管理室 企画調整担当係)

川崎市を直下とするM7.3、最大震度7の地震が発生! 大地震発生から復興へ向けた、川崎市の防災対策について『川崎市に大地震が起きた日』(防災啓発冊子)を参考に解り易く講演。「困った時にお互いが助け合う【まち】」を作っていくことが大切。



1.地震に備えた川崎市の取組み

川崎市HP <http://portal.kikikanri.city.kawasaki.jp/index.shtml> 参照
各種防災計画の策定、避難所や資機材等の整備、市民の自主防災活動の支援、市民への広報や啓発、訓練の実施と効果の検証

- ◇100回/年以上実施している『ぼうさい出前講座』
- ◇今年度も川崎市7区で14回の『総合防災訓練』実施を計画

2.川崎市に大地震が起きた日

○大地震発生直後…住いの耐震化、家具の転倒防止が大切!

消防署は直ちに消火活動開始。消防ヘリは川崎市上空を飛行撮影し被害を把握。市職員は災害時の持ち場に参集し、市役所内に災害対策本部を立上げ、市民への災害情報伝達開始。300本の鉄塔のレタカ等から避難勧告、津波警報等を発信。

○大地震発生から数時間後…消防劣勢状態…消防ホースットを活用した住民の初期消火!

消防署は消火活動を行いながら警察と共に救出活動を行う。大きな道をパトロール。大きな病院を中心に重篤な患者の治療を行い、DMATなど県外からの医療支援を受ける。避難所に市職員が派遣され、避難者等と共に175箇所指定避難所の運営を開始。

○大地震発生から1日…市民一人ひとりの備えが大切!

約150箇所の応急給水拠点や給水車から飲料水を届ける。大きな道のガレキの除去を開始。自衛隊の支援も始まる。13万7778人の避難者を想定。

○大地震発生から3、4日…避難所運営訓練に参加を!

一般建物の応急危険度判定を開始。国などからの支援物資を、北部拠点に一旦集め、各避難所に送る。ボランティアを立ち上げる。福祉避難所へ移送開始。7区のボランティアに遺体安置所設置。避難所や地域の家庭ごみの収集開始。

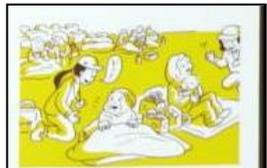
○大地震発生から1~2週間…地域全体がお互いに助け合ひましょう!

1ヶ月も徐々に復旧。災害ボランティアによる被災者支援が本格化。災害ガレキの処理を検討。復興方針を作り、公表。仮設住宅の建設や、避難者へ市営住宅の空室の提供を始める。罹災証明書の発行のための調査を始める。

3.主な質疑応答…体験手記 <http://www.npo.co.jp/hanshin/1book/1-022.html>

- 防災フェスティバルで楽しく防災を学んでいるが、『危機感』が伝わらない。伝えられる妙案は? →「天国へ行ったのんちゃん」等の体験手記を皆で読むと心に引っ掛かるものがある。
- 要援護者支援はどのように進めているのか? →災害時要援護者名簿を支援組織となる町内会・自治会等に提供。無理のない範囲で運営。

『左の写真』は、上から「大地震発生から数時間後」、「大地震発生から1日」、「大地震発生から3、4日」、「大地震発生から1~2週間」の図



●次回(第145回)案内

- ・日時: 2017年7月27日(木) 18時~19時30分
- ・会場: 神奈川大学1号館 804室
- ・話題: 『首都直下型大地震へ“鉄道”災害時の対策 ~鉄道の様々な防災問題と取り組み事例~』
- ・講師: 大湯 健司氏 (JR東日本労働組合東京地方本部 運輸安全・防災セクター室次長)